

# 「鹿島鉄道保存車輛見学と 廃線巡りの旅」を催行

関鉄観光(株)  
鹿島鉄道(株)

関鉄観光(株)、鹿島鉄道(株)では、11月27日、関東鉄道創立100周年記念ツアー「鹿島鉄道保存車輛見学と廃線巡りの旅」を実施し、27人が参加しました。

参加者は、まず旧坂戸駅（銚田市）とその周辺の廃線跡約450mのウォークを楽しみました。坂戸第1県道踏切跡をスタートし、落ち葉が深めに積もった軌道跡を踏みしめながら進むと、鹿島参宮鉄道社紋が刻まれた境界杭や25キロポストを見ることが



旧坂戸駅跡地。駅名板は、今回特別に「銚田駅保存会」と「鹿島鉄道保存会」から提供

旧坂戸駅周辺の軌道跡を散策

でき、間もなくホームと待合室跡が残っている旧坂戸駅に到着しました。かつて同駅で使用された駅名板が特別に掲示され、参加者は在りし日を偲んでいました。再び進むと、黄色の鉄板に蒸気機関車が描かれた「踏切有り、注意」を表す道路標識があり「参加者は鉄道が走っていた名残！、いつまでも撤去しないでほしい」と話し、興味深そうに写真におさめていました。

さらに進むとほっとパーク銚田に到着しました。ここには「銚田駅保存会」が廃線まで活躍したキハ601とKR-505を保存し、定期的に公開しています。参加者は運転席や客席、銚田駅から移設したという改札口のラッチに興味深そうに見て楽しんでいました。同会が車両の保全維持に尽力していることを知り、「とてもありがたい」と話していました。



〔ほっとパーク銚田〕

続いて通常は非公開で、特別に公開された「鹿島鉄道記念館」（小美玉市）を見学しました。敷地約300坪には、同線で活躍した車両3両や玉里駅の待合室、同鉄道従事者が使用した道具類、存続運動の資料など、参加者が「2時間ぐらいほしい」と嘆くほど、さまざまな所蔵品が保存されています。参加者は、座席に座りながら「このキハ714は、夕張鉄道（北海道）と鹿島鉄道で2回廃線にあったんです」と同車両の希少な人生を感慨深く話したり、また、廃線が決定後、かしてつ応援団の高校生がKR501車内に掲示した「ありがとう」のメッセージに「熱い気持ちが伝わってくる。涙出ちゃうねー」と話していました。



〔鹿島鉄道記念館〕案内する鹿島鉄道保存会代表の加藤三千尋氏

さらに参加者は、キハ432が保存されている小川南病院はるるの郷（小美玉市）へ。同車両を購入した同病院の諸岡院長が、参加者を同車両に案内し、「廃線前、県知事に陳情するなど存続活動をしましたが駄目でした。一番の支援は実際に乗って応援することです」と苦境にある全国の鉄道の支援を訴えました。また、大阪から参加された男性は、「好きなアーティストが、この車両に乗って2006年、PVを製作したんです」と話し、車内を背景に持参したCDジャケットを撮影し楽しんでいました。



〔鹿島鉄道記念館〕

小川駅バス停から石岡駅までは、同線の軌道跡をバス専用道に整備したBRTを走行する一般路線バス「かしてつバス」を利用、参加者に同軌道の今の役割を知っていただきました。

本ツアーは、見学場所など関係者の協力で実現しました。参加者は、「すぐ満席になったと聞きました。参加できてとてもうれしい」「豊富な内容で大満足の企画」と話すなど大好評でした。



〔小川南病院はるるの郷〕同鉄道との思い出話や地方鉄道への支援を訴える諸岡氏



小川駅バス停で貸切バスから「かしてつバス」に乗り換え